

産業構造審議会産業技術環境分科会・日本工業標準調査会合同会議知的基盤整備特別委員会・知的基盤整備専門委員会（第7回）-議事要旨

日時：平成27年11月12日（木曜日）13時00分～15時00分

場所：経済産業省別館11階1111各省庁共用会議室

出席者

委員

日高委員長（※「高」は「はしごだか」）、荒井委員、長我部委員、乙黒委員、海堀委員、勝田委員、小嶋委員、小畠委員、高橋（真）委員、高橋（洋）委員、辰巳委員、田野倉委員、成田委員、松田委員、三木委員、唯根委員

議題

- 第2期知的基盤整備計画の見直し（PDCA）について
 - 計量標準に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し
 - 微生物遺伝資源に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し
 - 地質情報に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し
- 今後の知的基盤の整備について
- その他

議事概要

1. 知的基盤整備計画・利用促進方策のレビューを行った。委員からの主な意見は、以下のとおり。

（1）計量標準に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し

- 中堅中小企業に対する制度の利用を促進する働きかけ、情報発信の強化をお願いしたい。
- 計量標準の利活用によるビジネス展開の具体事例をホームページ等で紹介することにより、計量標準を利用するといった意識がより高まるのではないかと。

（2）微生物遺伝資源に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し

- ニーズ調査の結果を見ると、本来企業内で解決すればよいと思われる要望が多く見受けられる。すべての要望に応えるということではなく、国としてどこまで整備すべきかをきちんと見極めて対応することが必要。今回の対応は、こうした観点を踏まえたものとなっている。
- 微生物遺伝資源の活用にあたって、特に食品の安全性については重要であり、安全情報の整備等、国のサポートが必要。
- 今後の微生物遺伝資源の収集にあるジャンルは、特に新しいアプローチではない。重要なのは、新技術と組み合わせた魅力的な取り組みが必要で、アプローチに戦略性を持って進めていただきたい。
- 生物多様性条約等の各国規制情報については情報の入手が困難であり、ホームページで情報発信をしていただきたい。
- この分野は、大村先生のノーベル賞の受賞で世の中の関心が高まっている。微生物遺伝資源の認知向上のために、小中高校生向けの普及活動を、長期的視点を持って積極的に実施して欲しい。

（3）地質情報に関する新たな整備計画・利用促進方策の実施状況及び見直し

- 地質情報の整備については、着実に進めていただきたい。
- 三次元地質モデルは高精度化が進んでおり、産総研に期待している。

- 5万分の1地質図について、リソースの問題もあると思うが、早い完成を目指していただきたい。
- 次世代シームレス地質図については、ニーズや利便性に適確に応えられるように構築して欲しい。

2. 今後の知的基盤の整備について、取組方針を確認した。委員からの主な意見は、以下のとおり。

- 安全・安心に係る知的基盤の「産学官」での活用というところで「民」を入れても良いのではないかと。機能性表示食品を例にすれば消費者自らが安全性を検証するという視点である。
- 市場の創出・拡大に資する知的基盤の整備では、計測方法などの技術開発とあわせて進めることが重要。
- PDCAも重要だが、次の技術が展開していくと何が必要になるのかといった観点で対応していく必要がある。
- 整備計画の3分野それぞれについて、ユーザーフレンドリーな対応や普及啓発に取り組んでいただいているが、これによって整備業務が阻害されてしまうのは本末転倒であり、現場の方が整備業務に時間を割けるよう配慮することも必要。
- 多くの人に知ってもらおう一つのアイデアとして、2020年の東京オリンピック開催時に埋め立て地が会場となるような場所で、地質情報と日本の埋め立て技術の高さを絡めてアピールしてはどうか。

関連リンク

[日本工業標準調査会知的基盤整備特別委員会 - 概要](#)

[産業構造審議会産業技術環境分科会・日本工業標準調査会合同会議知的基盤整備特別委員会](#)

お問合せ先

産業技術環境局 知的基盤整備推進室

最終更新日：2015年11月18日